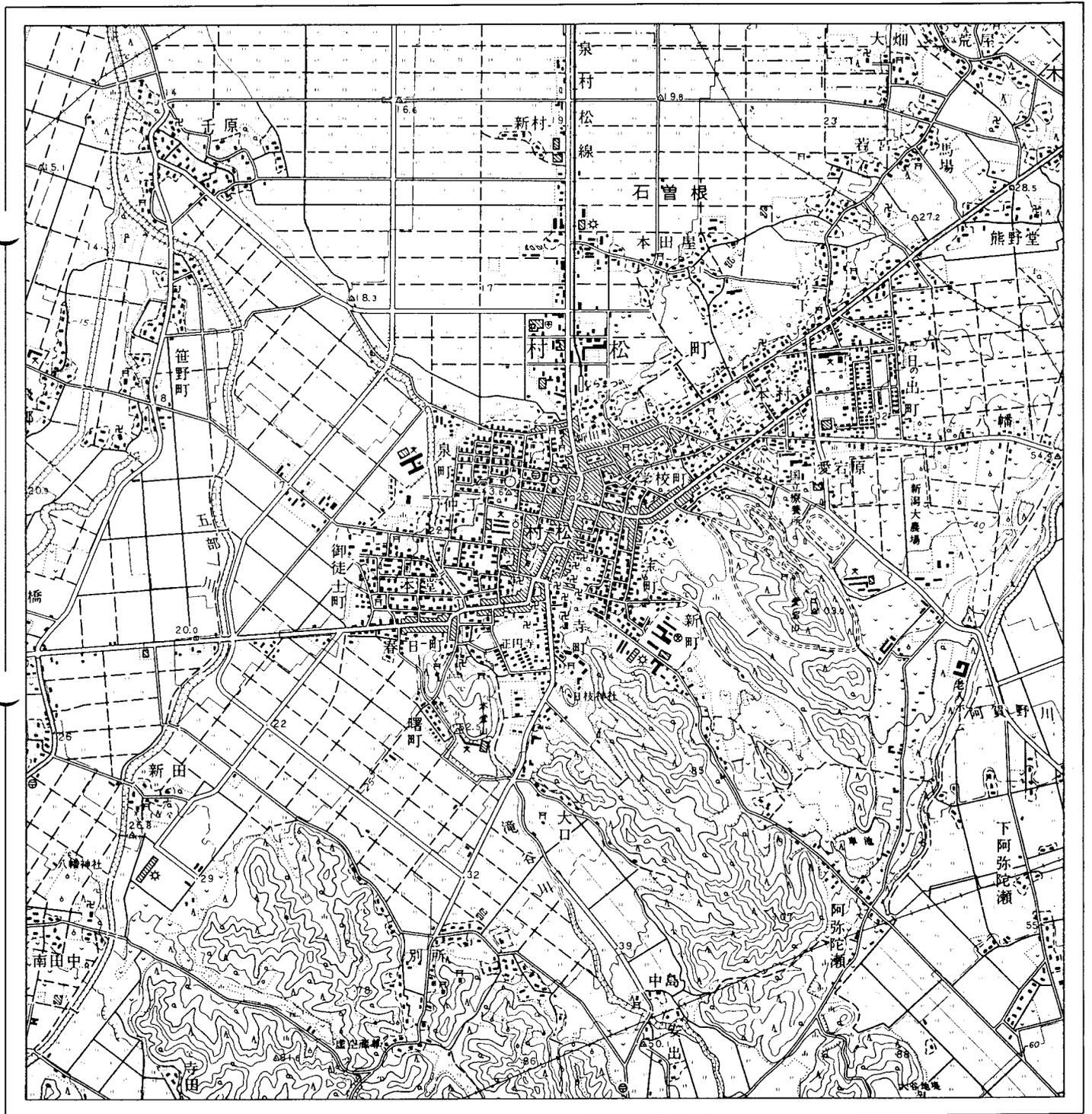


臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成2年度支部大会号 6.16



東京支部大会プログラム

平成2年6月16日(土)午後3時

於 池之端文化センター

第一部

開会挨拶	組織委, 副委員長	場内司令	伊藤 勇五 (中33)
		司会	八木又一郎 (高5)
			大橋 貞夫 (高10)
			深見 洋子 (高7)
経過報告	事務局長	中村 倉吉 (中22)	
支部長挨拶		佐伯 益一 (中27)	
来賓挨拶	同窓会長	茂野 敏郎 (中17)	
	本部副会長 (村松支部長)	貝瀬 弘 (中28)	
	本部理事	松尾 昭次 (中29)	
来賓挨拶	学校長	渡邊 建夫	
関係職員紹介		斉藤 徹志 (高6)	

第二部

懇親会開会	広報部会長	木村吉一郎 (高12)	
乾杯		沢出 赴允 (高6)	
歓談・会食		(出席高令者の中より)	
抽選会	企画部会長	佐久間英輔 (高6)	
		鈴木多喜男 (高4)	
		篠川 恒夫 (高2)	
写真		堀 直昭 (高8)	
		鶴巻 浩 (高10)	
余興		有 志	
手締め		支部長	
万歳三唱		同窓会長	
閉会挨拶	総務部会長	斉藤 和男 (中33)	

大会運営委員は支部幹事全員(氏名省略)

(表紙について)

村校高校所在地を中心とした周辺地図

建設省国土地理院発行2万5,000分の1

地形図を使用

支部大会に寄せて

“最近、思うこと”

東京支部長 佐伯 益一 (中27)



創立80周年記念として、本部で卒業生名簿が発刊され、現在お蔭を以って大いに活用させて頂いているが、毎年支部大会開催時期になると悩む事が多い。第一に会場の件についてであるがそれは前号に述べたし、一応解決は着く。第二には案内状の発送についてであるがこれは関東地区に居住される同窓生の数が極めて多く、且、年々増加しているのではどの程度に発送したら良いかと迷ってしまう事だ。全員に発送するのが筋であろうが経済的にも労務的にも仲々至難である。従って4~5年前か、約1,000人の人に支部会員に登録の希望の有無を求めたのであるが返事は割と少なく、現在登録者は約400名位、会費納入者は約200名位である。然し其の後、クラス員の紹介や本人からの申し込みがあり僅かではあるが年々増加の傾向にある。尚一層の御理解と御協力を願う処でもある。会報第8号にも述べたが支部幹事の力に負う処極めて多く感謝している次第であり、以上が現況である。

扱て、本年度支部大会開催の件であるが、今年は地理的にも条件が良く多数の方々の参加が予想される。礼を言うのはまだ早いかも知れぬが主催者の代表として出席者の皆様に心からお礼を申しあげたい。

来年秋頃に母校創立80周年記念の催しがある。母校や本部でもそれぞれ計画を始められていると思うが東京としては出来るだけ協力しなければと考えている。具体的な事はまだ何も決っていないが記念祭には東京から大挙して参加出来るようバスを

仕立てて乗り込むのもさぞ面白かろうと私なりに考えている。出来れば津川のキリン山温泉で前夜祭でもと想いをめぐらし夢を持つ。まあ来年の事だからその頃になれば又役員諸氏と相談したいと思っている。

最後に一つ提案がある。

創立80年を機にもう一つ、第二校歌と云うか同窓会歌と云うか、勇壮活発な行進曲風な歌を作りたいと云う事である。校歌だって今あるではないかと言われるが、現在の校歌は昭和6年、創立30周年を記念して作られたもので、私が中学5年生の時のものでもう50年近く経つ、相馬御風氏作詞、中山晋平氏作曲で仲々立派なもので何等異議を差しはさむものではないがあまりにも壮厳、崇高すぎて胸を張り、腕を振って歌うにはちとそぐわない気もする。

然らば浮田先生作詞の“ちりのちまた”があるではないかと云われるが歌詞は非常に良い。旧中校歌であったが今は応援歌となっている。曲がフランスの革命歌の曲であり、又日本ではメーデーのメロディー、古くは旧陸軍の“歩兵の本領”のメロデーにもなっている。他処で歌うと、あゝメーデーの歌かと云われる時がある。松高に今、女子生徒の歌う応援歌があるのだろうか、ワセダの女子学生も“都の西北”を歌っています。何とかここらあたりで新機軸を生み出して見たいと思う。歌詞は皆さんの合作でも良いではないか。作曲は誰かに頼めばよい、紙面の都合で意を尽くせぬ処もあるが色々とお意見もあると思う。敢えてここで一石を投じてみたい。

“松高の節目”

松高キャンパスは創立80周年を明年に控え、大きな節目を迎えようとしております。

先般、齋藤朝之氏(中28)から同氏著「零戦に乗って」を惠贈賜り、大戦時に若くして大空に散った同窓各位の鎮魂の書を拝読し、80年の重みを痛感しております。

松中・高女から松高へと教育制度の改革、戦時、戦後の厳しい時代であって、同窓各位には質実剛健の気風がみなぎり、青春を完結されたことと拝察いたします。

東京支部の皆様には、ご健勝にてご活躍の事と存じ上げます。さて、正月早々、作家の滝沢美恵子氏が芥川賞を受賞されました事は、本校の歴史に特筆すべき快挙でありました。氏は、地元「新潟日報」にも、示唆に富んだ健筆を振っておられます。

皆様の学ばれた本校は、県下有数の名門校でありましたが、昨年度の入学生は2学級分に近い定員割れの状態で、松高の存亡が問われるほどでした。幸い、本年度は関係中学校の協力もあり、普通科は定員に近い新入生を迎えることができました。現在、スポーツ・文化の部活動に参加する新入生が大幅に増えて、活気に満ちております。

来年度の創立80周年に向けて、皆様が営々と築き上げた母校を甦らせるべく、同窓会・PTA・学校の3者が昨年度から推進している事業等を紹介させていただきます。

学校長 渡邊 建夫



(1) 後援会の結成。

昨年9月から発足、生徒の進学、体育・文化各部活動に援助する。会員はPTA、同窓会、趣旨の替同者1口千円以上、PTAは3口

(2) 同窓会村松支部の動向。

町部、村部をそれぞれ区分し、区分地区別に評議員を選出し、機関誌「飛龍」の配達、会費の徴収等を通し、老若同窓の親睦、結束を図り、記念事業「雨天練習場」5千万円募金の中核となる。

(3) PTA北信越大会で発表。

「意欲的に取り組む生徒のために」をテーマに、保護者の啓発活動を行い、P、Tが連携して生徒指導に当たる実践例を齋藤省平会長が発表する。

(4) ボランティア活動指定校。

今後3年間、村松町を主に家庭クラブ、生徒会が中心となり、老人福祉等の奉仕活動を行う。

今日、豊かさの余り、生徒の中には自覚や自律に欠ける者、学習意欲の無い者もおりますが、毎日の指導の中で私共教師が人間味をもって生徒に当たり、時には毅然たる態度で臨みながら、21世紀に活躍できる生徒の育成に努める所存であります。

ありがとうございました。

—平成元年度支部会費納入者氏名（其の二）—

（平成元年10月21日～同2年3月31日）

浅井昭男(高6) 飯田 清(中29) 石井洋子(女26) 伊藤勤吾(高3) 金子 宏(中21) 川合敏男(高2) 北出昭夫(高15) 杵渕政海(高2) 小池生夫(高3) 小島眞一(中25) 佐久間二郎(中25) 佐々木秀和(高18) 沢井 昭(高9) 新保 優(高10) 鈴木健司(高4) 鈴木ヤヨイ(高6) 杉山 喬(高4) 田代正夫(中22) 千代国一(中18) 西山 莊平(中27) 羽下信弘(高7) 波田野義孝(中27) 馬場淑子(高6) 広瀬 憲(中25) 堀川俊郎(高2) 宮 健三(中25) 宮川陽子(高4) 宮嶋八弥(中18) 村田泰次郎(中14) 矢部五郎(中19) 山口三郎(中19) 山田幸子(高4) 渡辺 方夫(中34) 渡辺末五郎(中29) 以上34名

〔平成2年度分前納者〕

熊倉悦子(高10) 杉山 喬(高4) 千代国一(中18) 以上3名

(其の一分、会報8号掲載147名、合計184名)

〔会費納入時における寄付者氏名〕 単位：千円

金子 宏1, 小池生夫2, 佐久間二郎2, 鈴木健司2 杉山 喬5, 田代正夫7, 千代国一5, 西山莊平2, 宮川陽子1, 矢部五郎5 以上10名 32,000円

平成元年度収支決算書

松高同窓会東京支部

自平成元年4月1日 至平成2年3月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
支部会費	549,000	大会経費	924,788
大会会費	840,000	会議費	69,769
寄付金	490,000	払込手数料	8,760
広告費	92,000	通信費	146,392
雑収入	53,586	印刷費	364,372
		事務用品費	2,476
収入合計	2,024,566	雑費	88,880
前期繰越欠損高	△292,936	支出合計	1,605,437
		次期繰越高	126,193
合計	1,731,630	合計	1,731,630

上記の通り報告いたします。

平成2年4月14日

事務局 中村 倉吉 ㊟
会計 岡本 和子 ㊟

監査報告書

上記の収支決算書は監査の結果、適正であると認めます。

監査 芳賀 健一 ㊟

平成2年度の東京支部の動き

平成元年

1. 15 広報部会 塚田氏“ピラ”にて5名
1. 28 大会会場下見、麻布グリーン会館(3名)
2. 9 新年幹事会、高輪鋼管クラブ、20名、経過及び会計につき報告し了承。支部大会会場を麻布グリーン会館と羽沢ガーデンの何れかに決める事とし母校から生徒のブラスバンドを招聘する事決定。
2. 15 羽沢ガーデン下見、見積り、打合せの結果、羽沢ガーデンに決定、7名、会報第6号原稿、印刷所へ送付。
3. 22 同上印刷完了
3. 25 幹事会、事務局 6名、会報発送
3. 26 赤山会、新宿三井ビル、長老招待、出席者、長野、村田、水尾(広)、渡辺(文)、亀嶋、佐久間(精)、中村、佐伯
4. 15 幹事会、於陽寿院 26名 大会案内状発送作業他打合せ。
4. 29 赤山会、於私学会館。
5. 13 幹事会、於羽沢ガーデン、20名、大会準備、打合せ。
5. 16 会報第7号原稿、印刷所へ送付
5. 31 羽沢ガーデンと最終打合せ。
6. 2 会報印刷完了。
6. 3 支部大会開催、115名(詳細、会報第8号に掲載)。平成元年という事で特に明治、大正、昭和の三世代を過ごされた出席高齢者5氏に記念品を贈呈

(長野、川瀬、渡辺、横山、水尾(広)各氏)

・母校ブラスバンド部員、特別演奏、関谷先生他生徒11名

7. 1 幹事会、於中野、19名、支部大会反省会。暑中見舞状を発送する事決定。企画部会より東京湾一周納涼会実施提案決定。
 8. 4 幹事会、於陽寿院、10名、暑中見舞状宛名書作業(400名) 東京湾一周納涼会申込満杯につき中止となる。
 8. 17 本部同窓会総会、於村松“明月”支部より佐伯、中村、川瀬、伊藤、鈴木、佐久間(英)、鶴巻、深見の8名出席。二次会“きむら”
 10. 7 会報編集会議、於事務局、4名
 10. 20 幹事会、高輪鋼管クラブ、12名
 11. 5 赤山会、新宿三井クラブ、出席30名。
 11. 9 会報編集会議
 11. 10 会報原稿、印刷所へ送付。
 11. 19 池之端文化センターと支部大会契約。
 12. 23 会報8号発送作業、於事務局、8名
“ 幹事忘年会、於つたや、14名
- 平成2年
1. 17 滝沢美恵子さん芥川賞受賞。
 1. 26 広報部会、於鶴巻氏会社、6名
 2. 16 前同窓会長、金子義太氏死去、28日、告別式、於自宅
 3. 21 広報部会、会報9号編集会議。 以上

思い出のアルバムから

(秘蔵写真をお貸し下さい)

味岡先生への送別式後の記念撮影

(昭和7年11月校舎前にて)



松の木の根元に腰掛けている2人のうち、右の方が第七代校長内田娯老先生で、左の方が味岡先生(書記、陸軍特務曹長)である。その左(芝生であぐら)は解良教頭、内田校長の右は岡島教諭、その右は里見教諭で、立っている人物の右端から茂野教諭、吉澤先生(新任書記、

特務曹長)、岸本教諭である。

。臥龍・第20号 昭和7年学校日誌から。

なお、内田校長は昭和9年3月24日付で退職され、岡山市学務課長に就任された。

茶道宗匠を招き門下生と共に記念撮影

(昭和9年10月水島写真館にて)



味岡先生の顔は古い臥龍誌に載っていた永年勤続者表彰写真で確認しました。書記兼授業囑託、兵特務(陸軍歩兵特務曹長の略称)です。兵士からのたたき上げで極めて優秀な人が人事係下士官として特務曹長(準士官、後の准尉)(海軍では兵曹長)になるのだそうです。こま

昭和9年10月、第8代校長小野寺精一郎先生のころ、東京から茶道宗匠(表千家)の能重宗久氏を招き、村松中学校において作法の実習を指導していただいた。その後町内の水島写真館において、能重氏を囲み門下生の小野寺校長夫人ほか教諭夫人方と共に、記念撮影をした。

。臥龍・第22号 昭和9年学校日誌から

写真は前列左から、奈良教諭夫人、岡島教諭夫人、能重宗久氏、小野寺校長夫人、堀校医夫人、後列左から、水島ゆき子さん(水島写真館・令嬢)、里見教諭夫人、北原教諭夫人、斎藤、岸本教諭夫人、里見教諭夫人

かい実務に精通しているので中学校の書記として十分に通用したのだと思います。臥龍誌第22号、昭和9年学校日誌に、能重宗久氏の来校、作法実習の記録が載っているのを発見しました。これは大きな驚きでした。小野寺柳子様(校長夫人)はとにかく茶道に熱心な方であった

ようです。夫人から校長先生へ能重氏の中学校での作法実習を進言されたのではないのでしょうか？ 男子校に茶

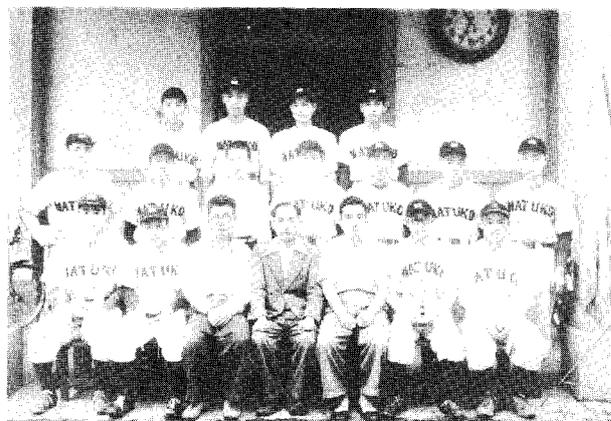
道宗匠を招きいったいどんな行儀作法を習わせたのでしょうか。しかも3日間もです。（中28. 齊藤朝之）

村松高校野球部 = 新潟県大会初優勝記念写真

昭和28年度全国高校野球選手権新潟県大会は雨のため予定を変更、決勝は8月9日新潟市宮白山球場で、信越大会に出場した新潟南高、新発田高、明訓校、村松高の4校が参加して行われた。この日は朝からくもりがちの天候だったがまず良好な野球日和、第1試合で新潟南高が新発田高に7-6で辛勝し続く第2試合では村松高が宮崎の好投で1-0と優勝候補の呼声え高かった明訓高にサヨナラ勝ちをした。午後3時半から勝ち進んだ新潟南高と村松高の決勝戦が行われたが、村松は初回に2点を入れ宮崎、金子の好投で新潟南の必死の反撃を押さえ、初めて優勝をなしとげた。なお、8月15日から2日間、秋田で開催された東日本優秀高等学校招待野球大会に新潟県を代表して出場し優勝した。

写真 前列左から、宮崎投手、武藤主将、安中教頭（野球部長）、中西校長、石本事務主任（野球部顧問）、金子

昭和28年8月、本校玄関にて優勝を記念し写したものを。



投手、明間捕手、中列左から、斎藤投手、沢出外野手、山崎マネージャー、棒内野手、佐藤外野手、阿部内野手、塩原内野手、後列左から、渋木捕手、白玉外野手、川瀬投手、加藤内野手。

桜名所100選（主なところ）

名所	植栽本数		みごろ	花見客	
二十間道路桜並木	10,000	ヤマザクラ 85%	5/5~15		北海道静内町
北上市立公園	10,000	ソメイヨシノ 30%	4/17~29	30万	岩手県北上市
桜山公園	5,000	フユザクラ 100%	11/15~25	5万	群馬県鬼石町
上野公園	890	ソメイヨシノ 53%	3/25~4/5	287万	東京都台東区
新宿御苑	1,900	ソメイヨシノ 60%	4/1~4/10	25万	東京都新宿区
小諸懐古園	395	ソメイヨシノ 67%	4/16~20	8万	長野県小諸市
霞ヶ間溪	10,000	ヤマザクラ 70%	3/26~4/5	2万	岐阜県池田町
カマガタニ					
大阪城公園	4,283	ソメイヨシノ 44%	3/29~	12万	大阪市
吉野山	30,000	ヤマザクラ 98%	4/6~4/10	35万	奈良県吉野町
千光寺公園	10,000	ソメイヨシノ 90%	4/3~4/10	10万	広島県尾道市
市房ダム湖畔	18,000	ソメイヨシノ 64%	3/24~3/30	6万	熊本県水上村
		シダレザクラ 26%			
名護城公園	23,000	ヒガンザクラ 100%	1/10~1/25	30万	沖縄県名護市
※村松公園	3,000	ソメイヨシノ 82%	4/5~4/18	13万	新潟県村松町
		ヤマザクラ 16%			
		ヤエザクラ 2%			

※わが国では非常に珍しい「日本一穂先彼岸八重桜」という品種がある。

平成2年度初幹事会

平成2年4月14日、日本鋼管高輪クラブに於て、3名の新任幹事を迎え、本年度初幹事会を開催した。（出席23名）

6月の支部大会に向けて、種々実務作業の後2時間程度の懇親会で更に盛り上がり、新年度も精一杯活動する事を誓い合った。



蒲原鉄道の軌道（六）最終回

昭和8年から13年まで

昭和8年1月16日の第21回定時株主総会で株主の熊倉兼蔵氏から「営業収入と営業費の関係を見ると利益勘定になっているが、欠損の大部分は借入金利子に追われている状態にあり、会社は未だ新株式に対し僅か22円50銭だけの払込みである。最近、世間も一般に活気付き経済界も立ち直りして来たような今は、多少なりとも株式の払込み金を徴収して、借入金を返済して、利息の軽減を計られ度い」との意見が出て会社にとって誠に力強い発言であり、早速、対応する事とした。

昭和8年上期に付いてみると、軍隊の帰還、スキー場の開設、木材の出荷、観桜客の吸収等の要因によって、旅客人員は前々期比38,366人増の296,293人、収入は、3,964円21銭増の32,322円81となった。

5月に大阪市営地下鉄が、梅田・心斎橋間を開通したり、6月には丹那トンネルの貫通も見られる。

昭和8年の稀有の大降雪は9回も運転を休止しているが、昭和9年になって村松起点11軒の七谷村の長谷地内で線路側石垣が崩潰したり、土砂崩潰が続発して来た。

昭和12年10月8日、会社創立満15周年記念として10年以上の勤続者を表彰し、一般株主に対しても記念待遇乗車証を贈呈した。

吾々旧制村松中学校第22回が卒業した年である。昭和13年7月23日の第32回定時株主総会で株主塚田常蔵より会社従業員の入り代りが頻繁であり、辞職の原因が給料不足等の待遇上に基因すると考えられると質問したのに対し、会社より今迄は欠損続きの状態であったが、順調に好転して来たので、7分平均の増俸を行い逐次待遇改善を講ずるとの考えを示した。

又、接客態度が良くないと聞かす、運輸長が監督指導に適切を欠いて居る。陸軍病院設置によって乗客も増加して各方面から入って来る様でもあり、会社の注意指導を望むとの厳しい発言があった。

昭和14年豪雪 昭和11年の豪雪に続いて、昭和13年12月以降、猛吹雪の為、五泉・村松間の送電線が切断して1時間の運休したのを始め、五泉・村松間68分、加茂

旧中22回 高地 覚

間91分の運休して年を明けた。昭和14年1月5日、懸命の除雪作業に当たったが、吹雪は猛り、遂に全面運休となってしまう。8、9、12日の吹雪運休が続く。

2月6日にも、全線運転不能となり運転を中止したが降雪多量に加えて、吹雪の為、五泉・村松間は10日にも106分運休し、村松・加茂間に至っては413分もの運休が出るなど大変な豪雪となった。

太平洋戦争に突入 昭和16年になると3月1日に国民学校令が公布施行され、小学校が「国民学校」となった。

3月7日に国民労働手帖法が公布され、10月1日に施行となり、4月1日に生活必需物資統制令が公布施行され、更には六大都市の米穀通帖配給制が始まる等統制は更に強化されて来た。

8月10日には、遂にアメリカが日本への石油輸出を停止した。此が為に石油を求めて進攻せざるを得なくなり、12月8日に真珠湾攻撃、対米英に宣戦布告となり、忌むしい太平洋戦争が始まってしまったのである。

連合軍の強力な反撃 太平洋戦争の緒戦は各戦線に於いて、吾が軍が圧倒的な優勢裡に作戦を進め、その限りでは長い時間をかけて着々準備されて来た軍需動員志向の経済体制はうまく機能しているかに見えた。しかし1年も経つうちに早くも吾が国と連合国との経済力の規模の差は誰の目にも歴然として来た。

私が近衛師団戦闘指令所で、バンコックを出発し、マレー南下作戦に参加し、シンガポール総攻撃を開始したのが昭和17年2月8日であった。物量の差を見せつけられて、死闘の末、陥落したのが、2月15日であった。

昭和18年2月、ガダルカナルでの敗北を契機として、吾が軍は、連合軍の強力な反撃の前に大きく崩され、全戦線に亘って敗退を余儀なくされた。

戦時下の蒲鉄 昭和17年に、東加茂構内貨物積卸場延長、上家の増築や電動客車、機関車の聚電装置を炭素摺板に改良工事を実施している。昭和18年に鉄道省より瓦斯倫（ガソリン）客車1両の譲渡を受けた。

昭和19年上期には、車庫敷地488坪が買収され下期には五泉停車場信号機が設置され、五泉・村松間が電気通

票式に変更されたり、村松変電所並に便所が新設されている。

昭和20年1月18日の第45回定時株主総会に於いて、昭和19年3月20日付官報掲載の勅令第142号の会社等臨時措置法施行令に依り、定款の一部改正が為された。時局に対応すべく、戦力増強資材の重点輸送に全力を傾注した。残念な事に、1月18日よりの近年稀なる大降雪に見舞われてしまい、村松・加茂間は46日、東加茂・七谷間は34日、加茂・東加茂間は36日と大巾な運休となってしまう、予期の成績を挙げる事は出来なかった。

石油・石炭といった重要エネルギー源の不足、原料、資材の調達の困難さと労働力の量的、質的制約による生産の低下、食糧事情の悪化等々は吾が国の戦争遂行能力を基盤から突き崩していった。

ポツダム宣言の無条件受諾に決す 昭和20年5月7日にドイツ軍が無条件降伏し、7月26日にポツダム宣言が発表された。軍部指導層の間にも、徹底交戦派と和平工作派の争いが顕在化するが、こうした断末魔の勢力争いに終止符を打ったのが、8月6日広島に投下された世界最初の原子爆弾であった。8日にはソ連が対日宣戦してしまった。8月14日午前10時50分、御前会議の席上、天皇御自身の御言葉でポツダム宣言の受諾は決った。

翌15日正午、4年に亘る長い苦しい戦いに倦み疲れた8,000万の同胞は、夫々の持場で首うなだれ、涙のうちに終戦の詔勅を聞いたのである。

— 戦後期の経営 —

占領下の経営 太平洋戦争の敗北は吾が国に明治開国以来80年間に於ける、最大の危機をもたらした。旧領土や勢力圏の喪失、国内各種資産の直接的、間接的被害の甚大さといった事もさることながら、何よりもそれは、吾が国が歴史上初めて占領下に入ることによって、国家再建の目標及び方式が他国の指導者の意志と判断にゆだねられることになった点であった。

初期の占領政策は非軍事化。民主化の2大目標を達成すべく極めて厳しいものであった。終戦以来、殆ど麻痺状態にあった主要産業活動の多くは回復せず、生産体制の軍需から民需への転換も思うにまかせず、悪性インフレーションの脅威にさらされた。

終戦の直後から次第に顕在化し始めた米ソ両国間の緊

張関係は昭和23年頃には、決定的となり、これが背景となって占領政策も日本経済の早期再建・自立の促進へとひそかに歴史的転換を遂げて行く事になった。

< 転換期 >

年間観桜期とスキーシーズンは、正に当社の多客期を構成し、桜キャラバン隊として中、下越一帯に宣伝した効果は大きく五泉・村松間を4両列車でピストン輸送しても賄え切れず、五泉駅より県道を徒歩による程であった。スキー場内に停留所を持ち“徒歩ゼロ分”のキャッチフレーズが受けて、スキーは下越地区の津川、弥彦と共に盛大となり、新潟・三条方面のスキーヤーで賑わい休日は1日2,500人を超えるものであった。併し、旅客は昭和42年の年間3,022,667人をピークに下降線を辿る事になり、自動車の普及と進展に伴いスピードを上げて減少して行き、底の推測すら出来ない状態に落ち込んで行く。昭和60年3月31日の加茂線の廃線時には旅客人員も年間100万人を切ってしまい907,157人に迄なっていた。

職員は永い苦境期の薄給に耐えながら、運行確保、安全確保の公共の責任を心として例年の様に襲い来る豪雪水害、台風と云う自然災害に見舞われる宿命に耐えて来たのである。雪の朝は新雪10糎以上で連絡通報なしに除雪装備で、全員が出動するシステムであった。3食の弁当を作り、主人の出掛ける前せめて通り迄もと雪除けをして来た奥さん方共々の闘いであった。

昭和21年の村松町の大火には自宅の焼失しているのに出動し、運行を確保し、駅舎建物を幾度となく火がついたが守り通しており、全てが焼失から免かれた事も未だ耳新しいものの様である。

創業以来、役職員の労苦を偲び、功績を称え、敢えて記録して来たもので感謝の意を表して、此の項を終らせて頂きます。

私の記録綴りのままの拙文で、永い間、広報紙の一遇を汚して来た事を恥入るばかりです。

皆様方の御健勝と御活躍を祈念して止みません。

(旧中22回卒 高地 覚、元蒲原鉄道常務)

支部会報第4号より第9号まで6回に亘り連載してまいりました“蒲原鉄道物語”は今回を以って一応終了させて頂きます。筆者の高地氏の御努力と御厚意に対し厚く御礼申しあげます。

(広報部会)

今村 均大将回想録を再読して

亀 嶋 謙 (中 22 回)

この程、昭和36年頃読んだ今村均将軍の名著を改めて読み直した。次の8冊である。

書名	発行所
◦ 幽因回顧録	秋田書店
◦ 檻の中の猿	自由アジア社
◦ 皇族と下士官	〃
◦ 大 激 戦	〃
◦ 戦い終る	〃
別 冊	
◦ 河童の23 (青春篇) 上巻	自由アジア社
◦ 健 忘 症 (青春篇) 中巻	〃
◦ 乃木大将 (青春篇) 下巻	〃

出版されたのは昭和35年から36年にかけてであったが、すぐ買求めて読んだ。面白くて、たちまち読んだが、読み心地がよい。そして心に残るものが多くあった。あれからもう30年を経たが、また読み直す気になった。どこが気に入ったかと言うと、

- 各冊共、単なる戦記ものでなく、ヒューマニティに満ちた香り高い内容であること。
- すべて本人の筆になるもので、世間によくある口述し補足してもらって出版したものではない。真実性があるって心にひびく。
- 予て聞き及んでいた今村将軍の人柄が、人生感がよく現われて聞きしに勝る人柄に尊敬の情を抱く。
- 誇張や飾り気のない文章は読んでいても気持がよく、文学書としても、また人生の書としても立派な本であること。面白さも十分ある。

先づ今村大将の経歴を振返って見よう。

明治19年6月、仙台市に生る。陸士19期卒、明治40年少尉に任官、大正4年陸大卒、参謀本部作戦課長、陸軍省兵務局長、第5師団長を経て太平洋戦ではジャワ進攻作戦を指揮、第8方面軍司令官としてラバウルで終戦を迎えた。

昭和22年5月、オーストラリア軍事法廷で、懲役10年の刑を受く。一旦、内地服役を許されたが、部下がマヌ

島(オーストラリア)で苦役に服していることを知り、志願して同島に逆戻り服役した。29年秋釈放、その後は戦争犠牲者後援会顧問、借行者理事長など勤め、昭和43年10月、82歳で死去。

私は前回読んだ時、私流の読後感を書いた。その備忘録もある。この度は2回に分け、私が読後、特に強く印象に残った箇所を中心に読後評を読してみたい。別冊、河童の23、健忘症、乃木大将の3巻の読後評から書きたいと思う。

今村大将の祖先は仙台藩に仕えた武士であった。維新で敗れてから家の不運が続いた。将軍の父である今村虎尾氏は艱難の中を独学で法律を勉強、給士から判事登用試験に合格、各地の区裁判所を転任された。将軍が物心のついた頃は甲州は鵜沢区裁判所の判事をしておられた。思い出の綴りは、その頃から初まっている。将軍は後、軍人になられたが、子供の頃は身体が小さく弱かったらしい。特に寝小便、夜尿症の癖があって恥ずかしめられたらしい。その癖を直すためにお灸をすえられて泣きわめいたこと、小学生になっても寝小便をして、母親に汚れた布団を顔にかぶらせられ、さあ、どこへでも出て行きなさい。もうお家には置かれたいと外に押しだされ戸を締められてしまったこと、学友や姉に「やい、寝小便たれ」と悪口されると、無性にくやくて、小さな身体でも死にもの狂いに手向っていった話しが淡々と綴られている。この寝小便の癖は中学へ入る頃には治るのだが、尿意で目をさます癖は、後に書く居眠りの癖とともに、後年、立身して将官になっても残っていて生涯に亘って人知れず苦ししたと手記にある。各巻にも、ときどきそのことにふれているが、人間は誰れしも人知れない癖を少しはもっているもので、正直さに感心した。

幼時から少年時代まで母親の躰の厳しさ、愛情の記憶が多いものだが、将軍の家は、また格別であった。その思い出の尊い綴りがある。

甲州は今も昔も「ぶどう」の産地である。小学生の頃均少年は数人の悪童と共に「ぶどう畑」に忍び込み、盗

み喰いをしたことがあった。或る時見張りの農夫に見付かってしまった。年上の悪童たちは、いち早く逃げたが均少年はつかまってしまった。どこの家の餓鬼だ。さあお前の家へつれて行け、かんべんしねえぞと、えり首をつかまえられて引連れて行かれた。家に着くと、母は農夫に丁寧に詫び、お礼を紙につつんだ。そして「さあ、あんたもおわびしなさい。もう決して悪いことはしないと申しなさい」と。均少年は、その通りあやまり農夫は帰って行った。それからが大変だった。農夫が帰ると母は均少年を2階の物置き部屋へつれて行き、手拭で両手をしばった。

母は怒り、にらみつけ、この手ですか。ひとさまの物を盗んだのは、あなたのお父さまのお役目を知っていないのですか。あなたのような盗人を家からだしてしまっただけなら、もうお父さまはお役所をおやめにしなければなりません。母は涙で顔をぬらしながら均少年を物差しで何回も打った。少年は恐怖で、がたがたふるえながら詫びる、母は少年を両手をしばったまま、父の帰るまで許さなかった。

やがて父が帰ってくる。母からの報告を聞いた父は、おだやかに均少年に言った。

盗みたいと思うぐらい欲しい物があつたら、すぐお母さんに言うんだ。お母さんがいけないといたらお父さんに言うんだ。僕は盗みより、面白かったんだと答えた。父は言う。

そうなんだ。はじめはそんな気でも、うまく手に入ると、だんだん悪くなるんだ。今日つかまったことは仕合せだったのだ。人間は、はじめが一番大事なんだ。欲しいものは、きつと言うのだぞ。父はそれだけいうと、両手をほどいて、さあ下へいってお母さんにお詫びするん

だと許してくれた。均少年は幼いながら自分が本当に悪いことをしたのだという自覚をした話。温かで正しい父と、厳しい愛情のこもる母の姿が目につかんでくる。

戦前、昭和の初め頃まで母親の役目というか、躰け方は厳しいものがあった。あの時代は、どこの土地でも、また階級に関係なくそうであった。男の子ばかりではない。女の子に対しても躰けは厳しかったものだ。いまの均少年の例とは、少々事情が異なるが、思い出すことが多い。女の子には、母親は、言葉遣いや、立居振舞いにも厳しく、どこの家庭でも、よく母親に手をついて悪うございましたと言わされ、それがいやでいつまでも親と根くらべ、強情のはり合いで泣きだて、とうとう隣家のおばさんが、かけつけとんできて、あやまってとりなしやっと許して貰った話、だいぶ前だが山川菊栄という人の書いた随筆のなかに、子供の頃、母親にお仕置きに暗い板の間の押入れへいれられ、鍵をかけられた。つまり簡単な牢屋である。泣いて泣いても出して貰えない。とうとう疲れ果てそのまま泣き寝入りをしてしまった話しが書いてあった。それから荒畑寒村という人の随筆にも、私も子供のとき、よく言われ、やられましたよ。懐しいというよりも、あれはむしろいやな思い出ですね。あの謝れといわれることはね、よく考えてみるとばからしいぶたれてからあやまっても仕方がないと書いてあった。あの時代はどこの親もやったことなのだろうと思う。今の子供は親も祖父母もぶたない。良いのか、悪いのか、ただあの時代の母親の苦勞は、いま考えると見るに忍びないものがあったと思う。大底は薄給で、それに多くの子供の世話ばかりで、人の倍も働いて何の楽しみとてない。外へもでない、一生家で働いて終わったのだから。

つづく

建設機材総合商社
関東資材株式会社

代表取締役 佐久間 英 輔
(高校第6回卒五泉出身)
小山地区新潟県人会会長

本 社 〒323 栃木県小山市駅南町6-22-3
TEL 0285-27-1931(代)
宇都宮 営業所 〒320 宇都宮市江曾島1-9-3
TEL 0286-58-6181(代)

阿賀野川ラインの景勝地

きりん山温泉 ホテル 福 泉

磐越西線・津川駅・鹿瀬駅、下車バス10分
電 話 02549-2-3131
(東蒲原郡鹿瀬町鹿瀬)

◎ 前同窓会長，金子義太氏死去される。

松高前同窓会長 金子義太氏（明45年生，78歳，旧中第14回昭和4年卒）は本年2月16日，心筋梗塞のため死去されました。

告別式は同18日自宅に於て執り行なわれ，県内外多くの著名士が参列され，盛大であったとの事です。

東京支部からは，御香典と弔電をお送り致しましたが今は金子先輩の生前の御活躍を偲びながら，御冥福を祈るのみであります。謹んでお知らせ致します。

（広報部会）



〔略歴〕

東京医専卒。昭和45年より同58年まで13年間，母校同窓会長。以後顧問，この間，村松町議，教育委員長を勤め，町教育行政に尽力，県知事表彰3回，文部大臣表彰1回。昭和58年，勲五等双光旭日章を授与される。

お便りの中から

拝復，御繁忙のところ御鄭重なお手紙を頂戴して恐縮致しました。金子さんの死去は存じませんでしたので驚きました。お丈夫でありお医者様であるのにどうなされたのだろうと思っています。村松に同級の方々は居られるのですが私の方で失礼ばかりしているので，連絡ありませんでした。金子さんとは小，中校共に同級でしたので，ほんとに惜しい人を亡くしたものだと思っています。

金子さんの御冥福を心からお祈り申し上げます。私こといろいろとお世話になりながら失礼を重ねて居りますが先年病気をしてから教職を退いて後，お医者様通いが仕事となって健康管理に励むのが精一杯というところです。御厚情を深く感謝して御礼を申し上げます。草々

（支部長宛，2. 24. 村田泰次郎，S 4. 14回卒）

商品管理・保管・及び流通加工
御社の分身としてご利用下さい。

京葉梱包倉庫株式会社

代表取締役社長 山崎輝雄（高8回卒）

本社 ・ 東京都江戸川区篠崎町5-14-23

TEL (03) 670-5221(代)

FAX (03) 676-1100

第一事業所 東京都江戸川区篠崎町2-189 TEL (03)678-3601(代)

第二事業所 東京都江戸川区篠崎町5-14-23 TEL (03)698-4711(代)

第三事業所 東京都江戸川区篠崎町4-24-1 TEL (03)678-9211(代)

第四事業所 東京都江戸川区篠崎町5-13-18 TEL (03)678-8791

第五事業所 東京都江戸川区南篠崎町1-2-16 TEL (03)676-0125

お便りの中から

同窓会にいろいろと活動させて頂き、すばらしい人達と知り合う事が出来、嬉しく思っています。昨年は本当に有難うございました。そしてこの会がこのまま終る

ことなく、何か可能性のある団体に発展させる事が出来たらと考えて居ります。本年もよろしくお願い致します。(一幹事より)

— 県 花 —

1. 国際花と緑の博覧会(花の万博)が4月1日から9月30日まで183日間にわたり大阪市において開催中ですが、テーマは花と緑は生命の根源であり、自然と生命を共有する人類の基礎でもある。

簡単に言えば、現代は世界的に都市化が急速に進み、それにつれて自然が失われてゆく中で、都市の内部に花と緑を造る必要があるのではないか。そして都市化と自然が調和し

あうよう人々に訴えていることだと思う。花の万博を是非とも見学したいものである。

2. 現在、各都道府県でその地域を代表する花を県花として指定している。

47都道府県の県花は次の通りで、中でも数の多いのは、桜が4県、梅が4県、つつじ4県と三種類の花が一番人気を分け合っている。

北海道=はまなす	青森=りんご	岩手=きり	宮城=はぎ	秋田=ふきのとう
山形=べにばな	福島=しゃくなげ	茨城=ばら	栃木=やしおつつじ	群馬=れんげつつじ
埼玉=さくらそう	千葉=なのはな	東京=そめいよしの	神奈川=やまゆり	※新潟=チューリップ
長野=りんどう	山梨=ふじぎくら	富山=チューリップ	石川=くろゆり	福井=すいせん
静岡=つつじ	愛知=かきつばた	三重=はなしょうぶ	岐阜=れんげそう	滋賀=しゃくなげ
京都=しだれざくら	大阪=うめ	奈良=やえざくら	和歌山=うめ	兵庫=のぎく
鳥取=なし	島根=ぼたん	岡山=もも	広島=もみじ	山口=なつみかん
徳島=すだち	香川=オリーブ	愛媛=みかん	高知=やまもも	福岡=うめ
佐賀賀=くすのき	長崎=うんぜんつつじ	熊本=りんどう	大分=うめ	宮崎=はまゆ
鹿児島=みやまきりしま	沖縄=でいご			

※新潟県の県花チューリップは1963年に指定されたものです。

広 報 部

ビジネスに 2つのヴィラ



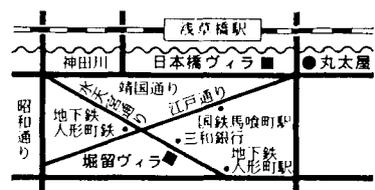


● 日本橋ヴィラ



● 堀留ヴィラ

● シングル 6,500円より (税・サービス料込)



電話 (03) 六六八〇八四〇
一〇一〇一〇〇

東京都中央区日本橋馬喰町二二一

丸太屋株式会社 代表取締役副社長 **塚 田 勝**

(高8回卒)

〒103 東京都中央区東日本橋2-26-8 自宅 浦和市原山4-23-12

電 話 03-862-0681

お 知 ら せ

8号の表紙になりました松高旧校舎の絵は、旧中三十二回卒業の鶴巻齊氏が、校舎解体直前に、想い出として、正門よりお描きになった水彩画です。この度その作品をカラー印刷致しましたので、御希望の方には、下記の要領でお分け致します。ハガキで御申込下さい。

1. 絵の大きさ（額寸法）と価格（額共）

大 28cm×37cm ￥3,000

小 20cm×25cm ￥2,500

〒108 東京都港区高輪2-1-24

（株）寿内

村松高等学校同窓会東京支部

電話（03）445-6501

振替 東京 2-136445

但し送料は着払と致します。

江戸前

御宴会に、御会合に

せん す し
鮮 寿 司

正木（日野尾）芙美子

高9回卒（村松出身）

TEL 800-9720

都電：荒川線 熊野前

廣 告 募 集 !!

会報に掲載する広告収入も東京支部発展への運営資金となりますので、御協力をお願い致します。

社名、社長名、業務内容及び人員募集など所在地、電話番号、写真等原稿をお寄せ下さい。出来れば完全版下でのご寄稿を歓迎します。広告の大きさはタテ5cm、ヨコ8cmで、5,000円です。その他大きさなど、ご相談下さい。

三 条 ビ ジ ネ ス 株 式 会 社

社 長 五 十 嵐 健

高校 6 回 卒 業 （ 村 松 町 出 身 ）

東京事業部 東京都江東区佐賀1-17-7

安田信託銀行証券代行部内

TEL 03 820 0346（代）

調布事業部 東京都調布市国領町8-2-15

安田信託銀行東京情報センター内

TEL 03 430 8200（代）

随時女性事務パート社員募集中

総務部会から

◎5月12日(土)支部幹事15名は午後2時より、高輪陽寿院に集合、支部大会開催の細部打合せを行った。打合せ終了後大会案内状発送のための作業を行い遅くまで大忙しであった。

企画部会から

企画部会としては次の各項について実施を考えておりますので各位の御意見等をお聞かせ頂ければ幸いです。投稿、お便り等をお待ちして居りますので御協力下さい。

- ① 新年会、忘年会等の開催。
- ② 日帰りハイキングや一泊小旅行の実施。
- ③ ゴルフコンペの開催。有志によるゴルフ部会などを作るのはいかがなものでしょうか。
- ④ 野球ナイター等の観戦。
- ⑤ 観劇、落語等の観賞。
- ⑥ カラオケ大会の開催。
- ⑦ 家庭不要品等の交換。(書籍等も含む)
- ⑧ その他同窓懇親に役立つような事項。

編集後記

会報9号を会員の皆様にお届けいたします。本号発行に際しご寄稿や広告掲載を賜りました方々に厚く御礼申し上げます。又時間と費用をご負担いただきました佐伯支部長、中村事務局長はじめ関係者の皆様に心より感謝しております。印刷や校正のミス等も多々、ある事と存じますが何分にも素人の集りです。よろしく御寛容の程お願いいたします。

今年も支部会員の皆様方の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

広報部スタッフ

沢出越允	高6回卒	鶴巻 浩	高10回卒
堀 直昭	高8回卒	寺山征子	高10回卒
大橋貞夫	高10回卒	真水道子	高10回卒
深見洋子	高7回卒		

広報部よりお願い

会報「臥龍が丘は緑なり」への寄稿をお待ちしています。内容は自由ですができれば学校時代の思い出、郷里に関する事から等書いて頂ければ幸いです。紙面の都合上400字詰原稿用紙2枚～3枚以内で、お願い致します。

尚、同窓会や会報に対するご意見、ご感想もお待ちしております。より良い同窓会支部会報づくりのために、皆様の御協力をお願い申し上げます。次号(第10号)の原稿〆切りは9月末日です。

財務部よりお願い

平成2年度の支部会費をお手数でも同封振込用紙にて、ご送金下さいますようお願いいたします。

(支部会計年度は4月から翌年3月までです)

年会費 3,000円

尚、支部会計不如意のりから、寄付金等、各位の浄財をいくらかでも上乗せして頂ければ幸に存じます。



広報部会、打合せの折、3/21、
於支部事務局、終了後泉岳寺参拝。

平成2年6月 第9号

発行人：新潟県立村松高等学校同窓会東京支部

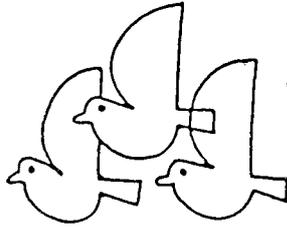
広報部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24
TEL 03-445-6501 (内線) 寿内
郵便振替 東京 2-136445

校 歌

旧県立村松中学校校歌

1. 塵の巷を遠ざけて
雲たち迷う白山の
麓に立てる松の群
見よ凌霄の気を含む
2. 緑色濃き木陰には
夏も尽せぬ泉あり
湧きて流れて末遂に
汪洋として海に入る
3. 落葉をくぐる流れにも
岩石砕く力あり
清きは水の姿にて
強きは誰が心ぞや
4. 万緑の気地に潜み
風雪野山に荒る時
色さえ変えぬ常磐木の
強きは誰が操ぞや
5. 八億亜細亜の民率い
行手遥けき文明の
海原遠く漕ぎ出でん
これぞ吾等がつとめなる
6. それ英雄も人傑も
人の子吾等がたぐいなり
嗚呼松城の健男児
勇みて立つべし諸共に



旧村松高等女学校校歌

1. 愛宕の山のむら松の
常緑色の常磐なる
操を胸に日の本の
をみな徳を磨かばや
2. 心は身はも真夏なほ
日に輝ける白山の
雲にもまさる清きもて
正しき道を進まばや
3. 其の名も高きこの里の
桜の花のうらうらと
のぼる朝日に匂うごと
気高き姿保たばや
4. 世界に比なくうるわしき
皇国の民と生れきし
幸をおもひていざやいざ
手を取り共に励まばや

新 校 歌

- 相馬御風 作詞
中山晋平 作曲
1. 普く照らす天つ日の
光を浴びて年々に
伸びてしまめ若松の
ときわの志操いや堅き
学徒われらの在るところ
明朗の和気みなぎれり
 2. 見よ質実に清純に
進取の生氣湧き溢れ
文明の花の咲くところ
希望は常に輝ける
道に我ら 進ましむ
努めなんいざもろともに

応 援 歌

1. 緑濃き臥龍ヶ丘に
轟くは我等が歓呼
若人の高なる血潮
たたえつつ春の日めぐる
2. いざ叫べ若人の誇り
わななける力の腕
見よや君歓喜の胸に
輝くは永久の勝利
1. 臥龍原頭幾星霜
切嗟琢磨の功を経て
からくれないの香に匂う
誉れは高き松城の
健児が胸に血やおどる
2. 我等がえらぶますらおの
誉れは海の湧くがごと
望みは雲のゆくがごと
月の桂をなゆずりそ
栄えある名をぞとこしえに
1. 松城健児六百が
祖国の為に剛健の
大図をここに定めんと
送りいぞせし我が勇士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり
2. 臥龍原頭精気あり
義憤に満ちし大丈夫が
驕奢の潮せきとめて
逸惰の眠り打ち破り
高うつ胸の雄叫びに
進めとなるを如何にせん
3. 今壮快の晴れ戦
見よ雄叫びの只中に
我等が望み一筋に
肩にぞかかる勇戦士
覇権をゆずることなかれ
我等六百ここにあり